

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回光輝学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時	令和6年6月10日（月）開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所	つくば市立手代木中学校多目的室		
事務局（担当課）	教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	近藤大雄、足立透、吉岡良治、清岡翔吾、宮腰清一 野口恵実、齋均、木下未佳、須藤路子、田中徹 手代木中学校：校長 四位悟、教頭 内藤雅巳 教務主任 内田尚樹 葛城小学校：校長 栗山良一、教頭 菅沼祐子 教務主任 村松薫 手代木南小学校：校長 江尻佳之 松代小学校：校長 立川英昭、教頭 尾崎朝子 教務主任 浅尾信也	
	その他		
	事務局	教育局次長：久保田靖彦 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪恵理名 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由			
議題	1 学校運営の基本方針について 2 熟議「地域や学校での児童・生徒の様子について」 3 その他		

会議録署名人		確定年月日	年	月	日
会議次第	1 開会				
	2 選任通知書交付				
	3 教育長挨拶				
	4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて				
	5 座長・副座長の選出				
	6 協議				
	(1) 学校運営の基本方針について				
	(2) 熟議「地域や学校での児童・生徒の様子について」				
	(3) その他 コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について				
	7 閉会				

<p><審議内容></p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 光輝学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として尾崎先生をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。</p> <p>2 選任通知書交付、</p> <p>事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。</p> <p>(「選任通知書」を足立委員に交付)</p> <p>ありがとうございました。お席にお戻りください。</p> <p>この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください</p> <p>3 挨拶</p> <p>・森田教育長より (久保田次長代読)</p> <p>「皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。</p> <p>本日はお忙しい中、第1回光輝学園コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育</p>
--

大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子ども
の育ちの場を支える。」ことが、今必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入
していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、
保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、
一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにあ
る学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流
を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミ
ュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園
で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みを
いかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思ってい
ます。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コ
ミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

光輝学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始ま
ります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何
ができるか、意見を出し合っていただければと考えています。つくば市
の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたしま
す。

4 説明事項

【つくば市のコミュニティ・スクールについて（村上社会教育主事）】

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて
御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしくお願
いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開
きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、
ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。
いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全
体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、
今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地
域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えています。つくば
市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を
学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼
稚園にするために、今年度特に意識していること

は、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子どもを育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

光輝学園は今年度、コミュニティ・スクール推進会議とって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会とって、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなど

です。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、光輝学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪及びハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しをするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずですが。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々のかかわりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々とかかわることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい 運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること

- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まること
です。

つくばの未来の創り手となる、子どもたちのために御協力をよろしく願っています。

【質疑応答】

田中委員：地域学校協働活動について、推進員がコーディネートするような仕組みと理解した。ただ、本校でも地域で児童生徒の学びに貢献したい人がある。また、4校それぞれで地域性があり、経緯があり、様々な取組がすでに始まっていると思う。これがゆくゆく学園合同で行なっていくということでのよろしいのか。

村上社会教育主事：新しいことや新しい組織を作ることではなくて、今あるものをベースに、これまでやってきたものを生かして地域学校協働活動につなげていければよいと思う。ただ、このような学校運営協議会の場において、例えばAという活動がありながらも、光輝学園ではこんな児童生徒を育てていきたい、そのためにはこのAという活動はこんなふうアップデートできるかなとか、そんな話合いができると、学園で目指す児童生徒像と照らし合わせながら今あるべき児童生徒について相談し共通理解できるのではないかと思うので、そういった理解をしていただけるとよろしいかと思う。

須藤委員：以前は、人材の把握を学校から通知を出して、人材の収集に当たっていたけれども、今の説明によると、人材の把握は、学校から推進員に移行していくというような捉え方で良いのか。

村上社会教育主事：そういった形が一番理想かとは思いますが、もともと学校がもっているネットワークを生かしていった方が良く思うので、連携を取って進めていければよいと思う。

須藤委員：学校の方が人材把握をするための通知を出すとか適していると思うが。例えば、私に地域の人材を把握してくださいと言われても、地域の方のどなたがそういう専門性があるかを把握するのに限界がある。なぜ、推進員に移行していくのか。

村上社会教育主事：まず、コミュニティ・スクールにおける役割について、確認をさせていただくと、皆様は準備段階の推進会議の構成員である。それとは別に地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動推進委員」いわゆる「地域コーディネーター」に活動を、学校と地域と連携してお願いする形になるかと思う。

須藤委員：コーディネーターが選任されて、その方が中心になって人材の把握、講師を依頼していくというような形になるのか。

村上社会教育主事：そういった形を目指しているが、コーディネーターの方に全部お願いするわけではなく、今までも学校と連携していたように推進会議の構成委員の中で、人脈やネットワークとかも使いながら広げてもらい、さらに地域につながっていくというのがコミュニティ・スクールの仕組みである。

須藤委員：実際に活動したときに、コーディネーターと学校が協力して、人材を活用していくというのは難しいのではないかと。コーディネーターがとても大変な活動になっている感じはする。

村上社会教育主事：教員は何年か単位で異動をしてしまう側面があること。地域の方が人材のネットワークをしっかりと把握されていること。そのような側面があるこので、コミュニティ・スクールの仕組みとしては、地域学校協働活動推進員が中心となって人をつないでいき、それに対して、様々な人が協力するような体制を整えていければと思っている。

足立委員：今年度、または来年度の中でそういった視点を大切にしながら、学校がすでにもっているネットワークと、まだもっていないネットワークとの差異をつなげて、この協議会や推進会議の中で考えていければよいかなと思う。

5 座長・副座長の選出

座長 → 足立透委員

副座長 → 野口恵実委員

6 協議

(1) 学校運営の基本方針について

① 光輝学園長（四位校長）：学園グランドデザイン（学園要覧）の説明

光輝学園の名前は、平成7年当時、本校で行われていた文化祭・光輝祭に由来している。この文化祭は一人一人が生き生きと輝くと同時に、学校自体も元気に溢れ輝いてほしいという思いを込めて開催された。光輝学園という名称にはその思いが込められている。

その思いを受け、学園目標「未来をひらく力を身につけ、夢に向かって自ら学び一人一人が輝き活躍できる学園」と設定した。

この目標を実現するために光輝学園3小1中が共有しているのが、「目指す児童生徒像」で、9年間を見通して、未来を志向し、夢や希望をもってたくましく生きる児童生徒の育成を目指している

学園内では様々な「小小交流行事」、「小中交流行事」を実施しているが、これらの行事を通して、いかにねらいとしている目指す児童生徒像に近づけるかを考えながら計画し、実行している。

変化の激しい現代社会、今後さらに加速していくことが予想される。現代社会において、学校だけの力では子どもの育成に太刀打ちできない状況である。義務教育の9年間は、子どもたちは地元、地域で育っていく。これからは、今まで以上に学校・保護者・地域の三者が思いを共有し、多くの人たちで関わり育てていく必要がある。

未来を自らの力でひらき、夢に向かって進んでいくための様々な力を身に付けさせたいと考える。

② 葛城小学校（栗山校長）：葛城小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数505名、通常学級17、特別支援学級4である。

学校教育目標「夢や希望をもち、心豊かにたくましく生きぬく児童の育成」の下、組織目標として「思いやりの心をもつ『かつらぎっ子』の育成を目指した学級経営の充実」と「自ら学び、考え、生かすことのできる『かつらぎっ子』を育てる学習指導の充実」の2つを掲げている。

これらの目標を達成するために、3本の柱「確かな学力を育む教育の推進のための授業改善」、「豊かな心を育む教育の推進のための学級経営・心の教育の充実」、「健やかな体を育む教育の推進のための保健指導・体育指導の充実」を立て、知徳体それぞれの課題解決に向けて、具体的施策を講じていく。子供たちのよりよい成長のためには、地域や家庭、関係機関のご支援が大変重要だと考えている。これからも、地域とともにある学校を目指して、教育活動に取り組んでいきたい。

③手代木南小学校（江尻校長）：手代木南小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数は370名、通常学級13、特別支援学級4である。

手代木南小学校のグランドデザインは、「よりよい未来を築くために人を育てる」という Our Purpose（志）を掲げながら、本年度の教育目標である Our Dream（夢）を「夢をもち未来を創る学校づくり」とした。

「児童一人一人が、夢をもって生活できる学校」「地域の方が、子どもたちの夢を語ることができる学校」「私たち教職員が、夢をもって勤務できる学校」そのような学校づくりを基盤としながら、本年度は、組織目標を「児童にとっての教職員にとっての Well-Being をめざして」とし、重点的な取組の柱として、認知科学に基づいた授業改善、教職員の働きがい重視した「持続可能な学校組織の発展を目指す働き方改革」とした。これらの取組を推進する上で、地域の人材資源等を活用した体験的な学びのさらなる充実や、学校運営の質を高める地域との協働体制の構築などが一層重要になり、その中心となるのが、コミュニティ・スクールとの連携であると考えている。

以上のことを踏まえながら、一人一人が Well-Being を実感し、未来に向かってともに歩むことができる手代木南小学校をつくっていきたいと思う。

④松代小学校（立川校長）：松代小学校グランドデザインの説明

本校は、児童数384名、通常学級12、特別支援学級3である。

学校教育目標は、「豊かな心と創造力にあふれ、たくましく生きる児童の育成」で、経営方針として、「夢・感動にあふれ、地域から信頼される学校づくり」を進めていく。ルールメイキングプロジェクトモデル校の指定を受け、「つながる」「考える」「伸びる」「話し合う」「創り出す」の5つの言葉を大切に学校経営を進めている。

「学びわくわく」においては、「授業で勝負する」という意識のもと、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり、探究的な授業づくりに取り組んでいく。

「心ポカポカ」においては、「心の安定基地」となる学級づくりを進めていく。ルールメイキングを有効活用し、納得解を導く力、折り合いをつける力を育てていく。

「身体もりもり」においては、リズムジャンプを活用した体力の向上、栄養

教諭配置の強みを生かし、食に関する指導の充実にも力を入れていきたい。

⑤手代木中学校（四位校長）：手代木中学校グランドデザインの説明

本校は、生徒数 566 名、教職員 40 名（非常勤含むと 53 名）で、通常学級 16、特別支援学級 6 である。また、通級指導教室が 1 開設されている。

今年度テーマに掲げているのは「人が育つ学校」である。生徒・教職員、そして保護者も手中に集うすべての人がこの学校を中心に成長していけることを願っている。

育つ学校を囲んでいる 6 つの力に注目していただきたい。これは昨年度末に教職員が生徒の実態を分析し、その課題から身に付けさせたい力としてピックアップしたものである。

実態を分析する中で、多くの教職員が感じていたことは、課題に対し、じっくり取り組み自分の考えや意見をもつことはできるが、相手に伝えたり表現したりすることが苦手であるということで、特に「コミュニケーション力」を育てていきたい。

目指す学校像にも、尊重し合い・言葉をかけ合い・補い合いなど相手意識をもつことを掲げた。

これらの力を育てていく土台は、保護者・地域・学校であると考えられる。変化の激しいこの時代、学校だけの力で子どもたちを育てていくことは到底できない。この三者が協働しながら、地域に愛される学校でありたい、また、地域を愛する生徒を育てていきたいと思う。

（2）熟議

【ファシリテーター（江尻校長先生）より熟議について説明】

江尻校長：テーマは、「地域や学校での児童・生徒の様子について」である。つくば市の教育大綱でうたわれている「一人一人の幸せ」を軸にして、どういう子どもに育ててほしいのか、各学校の委員の皆様で出し合っていただきたい。

それに対して、現在の児童生徒の様子はどうか、学校での様子、地域での様子から意見を出し合っていただきたい。そして、目指す児童生徒像に近づけるために、現在どのようなことに取り組んでいるのか、さらに、これから学校や地域がどんなことに取り組んでいけばいいのか、「地域の資源」のところに列挙していただきたい。また、目指す姿と現実との差異からどんな手立てが有効なのか、また地域の資源としてどのようなことが活用できるのか、熟議を進めていけたらいい。

テーブルごとに熟議を 20 分程度で進め、熟議が終わったら、テーブルごとに簡単に発表していただきたい。

【各グループで協議されたことの発表】

①手代木中

- ・光輝学園の地域は、「知・徳・体」の部分では、「徳」に課題あり。
- ・人間関係づくりが希薄。

- ・学校では、あいさつする生徒はいる。
- ・学校の様子でも、地域の様子でも、「あいさつ」がキーワード。
- ・元気にあいさつできることが、人間関係づくりでも大事と考える。
- ・相手を思いやる心、コミュニケーション力の育成が大事である。

②葛城小

- ・児童の実態として、「体験活動や行事等に一生懸命取り組める」、「下級生に優しい」「異学年で仲良く遊んだり、活動したりすることができる」というよさがある。反面、「あいさつがあまりできない」という課題がある。
- ・地域としては、昔ながらの地域が残りつつ新しい住民が増え、新旧が入り混じった様々な人材がいる。ボランティア活動をしている人材もいる。
- ・様々な人材がいるよさを生かしながら、『チャレンジ』『コミュニケーション』をキーワードとした、これからの社会を生きる上で必要な力を育成できるようにしたい。

③手代木南小

- ・子どもには楽しんでほしいし、楽しむことを通して自己肯定感を培ってほしい。
- ・学校での様子は、全体的には、素直で良い子が多いが、良い子であろうと頑張っているところもある。もっと伸び伸びしてもいいと思う。
- ・あいさつは少なかったり、公園で遊んでいる子は限られていたりする。
- ・地域の特性として核家族が多いので、見守りの目が弱いところがある。そのため、何かあったらすぐ学校に連絡するということがある。そういうところをうまくフォローしていけたらいいと思う。

④松代小

- ・グランドデザインに書かれている子にプラスして思いやりのある子に育ってほしい。
- ・学校での様子は、素直、集中力が高い、知識がある、タブレットが上手に使えるといった意見が出た。課題は、コミュニケーションスキルや積極性の部分を伸ばしてほしいというところである。
- ・地域資源としては、専門性がある方、コミュニティができている区会もある。また、公園が多く、遊べる環境がある。歩道橋もあるが、歩道が歩きにくい箇所もある。医療関係者や商店が多いという特性もある。
- ・地域の子どもの様子としては、全体としてはあいさつが課題である。一方、比較的規範意識は高い。放課後は、習い事をしている子が多い。下校時は元気いっぱいだが、もう少し元気でもよいのではないかと考える。

(発表のまとめ)

江尻先生：キーワードになってくるのは、あいさつとコミュニケーション。そのあたりがもっと活性化していくと、子どもたちの幸せにつながっていくのか

など。それから、地域の資源がまだまだ埋もれてしまっている。そういう部分もこれからうまく活用していけたらいいのかなという意見が多かったかと思う。今後、学園の活動の中では、出た意見をできるだけ参考にしながら教育活動を進めていけたらと思う。

(3) コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

本年度、年2回の推進会議を予定している。

次回は、令和7年2月6日(木)14:30から手代木中学校での開催を予定している。

7 閉会

以上をもちまして、令和6年度 第1回 光輝学園コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

令和6年度第1回 光輝学園コミュニティ・スクール推進会議

日 時：令和6年6月10日（月）

14：30～

場 所：手代木中学校 多目的室

次 第

1 開 会

2 選任通知書交付

3 教育長挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクールについて

5 座長・副座長の選出

6 協 議

(1) 学園運営の基本方針について

・各校のランドデザインの説明

(2) 熟 議 テーマ「地域や学校での児童・生徒の様子について」

(3) その他

・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

7 閉 会

光輝学園コミュニティ・スクール推進会議 受付名簿

	学校名	お名前	区分
1	手代木中学校	コンドウ ダイユウ 近藤 大雄	(2)児童・生徒の保護者
2		アダチ トオル 足立 透	(2)児童・生徒の保護者
3		ヨシオカ ヨシハル 吉岡 良治	(1)地域住民
4		シイ サトル 四位 悟	(5)学校長
5		ナイトウ マサミ 内藤 雅巳	(6)教職員
6		ウチタ ナオキ 内田 尚樹	(6)教職員
7	葛城小学校	キヨオカ ショウゴ 清岡 翔吾	(2)児童・生徒の保護者
8		ミヤコシ セイイチ 宮腰 清一	(1)地域住民
9		タテノ キヨコ 館野 清子	(4)学識経験者
10		クリヤマ リョウイチ 栗山 良一	(5)学校長
11		スガスマ ユウコ 菅沼 祐子	(6)教職員
12		ムラマツ カオル 村松 薫	(6)教職員
13	手代木南小学校	ノグチ メグミ 野口 恵実	(2)児童・生徒の保護者
14		サイ ヒトシ 齋 均	(2)児童・生徒の保護者
15		キノシタ ミカ 木下 未佳	(1)地域住民
16		エジリ ヨシユキ 江尻 佳之	(5)学校長
17		ドイ シホ 土井 志穂	(6)教職員
18		シバヌマ トモコ 柴沼 智子	(6)教職員
19	松代小学校	スドウ ミチコ 須藤 路子	(4)学識経験者
20		タナカ トオル 田中 徹	(2)児童・生徒の保護者
21		タチカワ ヒデアキ 立川 英昭	(5)学校長
22		オザキ アサコ 尾崎 朝子	(6)教職員
23		アサオ シンヤ 浅尾 信也	(6)教職員



令和6年度 光輝学園 つくば市立手代木中学校
グランドデザイン



光輝学園教育目標
未来をひらく力を身に付け、夢に向かって自ら学び、
一人一人が輝き活躍できる学園

本県教育の目標

ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し協力し合う心を育てる

いばらき教育プラン

一人一人が輝く教育立県を目指して
～子どもたちの自主性
自立性を育もう～

学校教育目標

人や社会とつながり、未来を切り拓く
心豊かな生徒の育成

目指す教師像

- 学びを止めない教師
- 熱い思いを持った教師
- 生徒を何よりも大切に
する教師

目指す生徒像

- 自分の考えをもち、判断
し、実行する生徒
- 思いやりがあって、優しさ
あふれる生徒
- 社会の一員としての自覚
を持ち貢献できる生徒

つくば学び推進方針 2024

みんなが幸せを実感できる学校
～自己実現できる学校・みんなで支え合い、
みんなが生き生きとした学校～
○教えから学びへ
○管理から自己決定へ
○認知能力偏重から
非認知能力の再認識へ

光輝学園の目指す児童生徒像
9年間を見通して、未来を志向
し、夢や希望をもってたくましく
生きる児童・生徒

<目指す学校像>

手中に集うすべての人が
尊重し合い 思い合い 言葉を掛けあい 補い合って
誰もが成長していける学校

学校組織目標

探究心と思いやりに溢れる生徒と教職員が育つ学校

自律力

- ・自らの考えをもち、自ら判断し、
行動する
- ・自らの目標に向かって、調整し
ながら達成しようとする

思いやり

- ・互いに尊重し合う(多様性を認める)
- ・感謝の心を大切に
- ・ありがとうが溢れる日常

確かな学力

- ・探究心をもって主体的に学ぶ
- ・協働的な学び・ICT活用
- ・世界的視野をもつ

生徒・そして教師も
人が育つ学校
～幸せを感じながら～

規範意識

- ・社会のルール
- ・「当たり前」を地道に続ける
- ・堂々と、そして生き生きと生活する

チャレンジ精神

- ・夢をもち、果敢に挑戦する力
- ・1度や2度の失敗に負けることなく、
再挑戦する力(レジリエンス)

コミュニケーション力

- ・対話を欠かさない(どんな小さなことでも)
- ・相手の考えを聞き自分の考えを伝える
- ・あいさつは最も大事なコミュニケーションツール

地域に愛さ
れる学校

地域を愛す
る生徒

コミュニティ・スクール

保護者、地域、学校が協働しながら
子どもたちの豊かな成長を支える

保護者・地域・学校の連携が土台

～保護者が幸せ・地域が幸せ～

安心・安全な学校



令和6年度(2024年度) 光輝学園つくば市立葛城小学校
グランドデザイン



光輝学園教育目標

未来をひらく力を身に付け、夢に向かって自ら学び、一人一人が輝き活躍できる学園

本県教育の目標

ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう

じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う

郷土を愛し協力し合う心を育てる

いばらき教育プラン

一人一人が輝く教育立県を目指して
～子どもたちの自主性
自立性を育もう～

学校教育目標

夢や希望をもち、心豊かに
たくましく生きぬく児童の育成

つくば市の教育大綱

- 「教え」から「学び」へ
一斉・一方向教育から
個別・双方向の学びへ
- 「管理」から「自己決定」へ
受動から能動へ
- 「認知能力偏重」から
「非認知能力の再認識」へ
知識偏重の教育から全人教育へ

目指す教師像

- 子どものためになることを本気で考え、全力で取り組む教師
- 明るさと和を大切にし、協力し合う教師
- みがき合い、高め合い、支え合いながら資質の向上を目指す教師

目指す児童像

- 学力を身につけ自分の夢を育てるかつらぎっ子
- 感謝と思いやりの気持ちをあらわすかつらぎっ子
- 体をきたえ、ねばり強く取り組むかつらぎっ子

光輝学園の目指す児童生徒像

9年間を見通して、未来を志向し、夢や希望をもってたくましく生きる児童・生徒

経営方針 子どもも、保護者も、教師も

「笑顔で元気に 思いやりの心で」

本年度の研究主題

(学園) 未来をひらく力を身に付け、夢に向かって自ら学ぶ児童生徒の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ学習活動を通して～
(学校) 協働的な学習を通して問いを解決し、学びを深める指導の在り方

学校組織目標

- 思いやりの心をもつ「かつらぎっ子」の育成を目指した学級経営の充実
- 自ら学び、考え、生かすことができる「かつらぎっ子」を育てる学習指導の充実

<p>かしこさ ～確かな学力を育む教育の推進～</p> <p>【授業改善「わかる・できる」(学び合い)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現 ・学習意欲を引き出す課題設定の工夫や、考えを広げたり深めたりする発問の工夫 ・習得した概念や考え方を活用し、新たな問いを見いだして解決する授業の工夫 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等を育む授業の工夫 ・ICTを活用した指導方法の工夫改善 ・見方・考え方を働かせながら行う学習の充実 個に応じた多様な指導方法及び指導体制の工夫改善 ・ITや少人数指導の充実 ・専門性を生かした中、高学年の教科担任制 ・ニーズに応じた支援、チームサポートの推進と支援会議の充実 ・全職員で取り組む温かい特別支援教育 	<p>なかよし ～豊かな心を育む教育の推進～</p> <p>【学級経営・心の教育の充実(認め合い)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 所属の喜び、まごころ込めて、励ましあうことを大切にする学級経営の充実 ・思いやりの心を育てる体験活動の充実(挨拶・言葉遣い・規範意識の向上) ・達成感による自信を持たせる学級経営 互いを褒める、認める温かい人間関係づくりの推進 ・よりよい学級・学校生活をつくる教育活動の推進(にこにこタイム・ルーム作り) ・いじめ等の未然防止につながる児童会活動の自主的な取組の充実(いじめゼロ作戦) ・「思いやり算」の推進 新しい生活様式やグローバル社会に対応できる教育の推進 ・ESD(持続可能な開発のための教育)の推進 ・情報モラル教育の推進 ・学習用端末の使い方の徹底 	<p>たくましさ ～健やかな体を育む教育の推進～</p> <p>【保健指導・体育指導の充実(高め合い)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 体育活動の充実 ・体力アップ推進プランの改善・充実(月ごとと年間のRPDCAサイクル) ・業間、昼休みにおける外遊びの奨励 ・体育授業時のサーキットトレーニング導入(投力・筋力・跳躍力の向上) 健康安全教育の充実 ・養護教諭・担任との連携による食育及び保健指導の充実 ・危険予測・危険回避能力の育成(けがの防止) ・「早寝早起き朝ごはん」運動の推進 ・喫煙・薬物乱用防止・性・がん・感染症に関する指導の充実(外部講師の積極的な活用)
--	--	---

学校と家庭が連携して、一輪に子どもを育てる

「授業に進んで取り組んでいる」 95%以上 (昨年度 94%)

「意見を申し合って課題(問題)に取り組んでいる」 88%以上 (昨年度 88%)

「学校生活が楽しい」 93%以上 (昨年度 91%)

「友達と仲良く生活している」 95% (昨年度 96%)

「体力テスト評価A+B」 45%以上 (昨年度 43%)

「健康的な生活心がける」 90%以上 (昨年度 89%)

安全・安心な学校づくり【支え合い】

- ・自動車学校を会場とした交通安全教室の開催
- ・避難訓練、引き渡し訓練、防災教室
- ・地域との連携による学校防災連絡会議及び学校防災推進事業の実施

教師力・学校力の向上【磨き合い・励まし合い】

- ・教員評価並びに校内研究による人材育成(OJT研修・ブロック研修)
- ・積極的な授業公開、授業参観(保護者の自由参観の奨励)
- ・服務規律の徹底とコンプライアンス意識の向上
- ・「働き方改革」の推進と学校業務の改善(働き方改革推進委員会月1回)
- ・小中一貫教育(光輝学園)の充実～「心と学びの連続性」

地域とともにある学校づくりの推進【ふれ合い・つながり合い】

- ・葛小応援団との連携した子どもたちのための活動強化
- ・葛城版コミュニティ・スクールとの連携(かつらぎキッズフェス)
- ・学校教育活動の積極的な公開(各種たより等やスクリーンによる情報発信並びに学校公開の充実)
- ・光輝学園コミュニティ・スクールの準備期間の充実
- ・地域力を生かした教育活動の工夫
- ・保幼小連携の強化(相互授業参観)
- ・学校・学園評価の活用
- ・昔遊び



令和6年度 手代木南小学校グランドデザイン

Our Purpose(志) よりよい未来を築くために 人を育てる

Our dream(夢) 夢をもち未来を創る学校づくり

- ◎ 児童一人ひとりが、**夢**をもって生活できる学校
- ◎ 地域の方が、子どもたちと**夢**を語ることができる学校
- ◎ 教職員が、**夢**をもって勤務できる学校

Our Belief(信念)

- ◎ 失敗してもその挑戦を称えよう (good try)
- ◎ **Best** より **Better** をめざせ
- ◎ 人と違った「いいね!」を育てる

組織目標

**児童にとっての 教職員にとっての
*Well-Being*をめざして**

- ◎ 認知科学に基づいた授業改善 (生きた知識)
- ◎ 持続可能な学校組織を目指す働き方改革

働き方改革

～ 3間(時間 空間 仲間)の推進～

- 1 自分磨きの時間を大切にする
 - ・ 積極的な自己研鑽
 - ・ 研修での学びをみんなのものに
- 2 DXによる多様な空間づくり
 - ・ デジタルとリアルの多様な空間の活用
- 3 ファシリテーターによる仲間づくり
 - ・ 結果を求めないグループ研修
 - ・ 意見が出せる会議づくり





光輝学園教育目標
未来をひらく力を身に付け、夢に向かって学び一人一人が輝き活躍できる学園

学校教育目標
豊かな心と創造力にあふれ、
たくましく生きる児童の育成

本県教育の目標
ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
しょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し
協力し合う心を育てる

つくば市教育大綱
最上位の目標
一人ひとりが幸せな人生を送ること
考え方の転換
・「教え」から「学び」へ
・「管理」から「自己決定」へ
・「認知能力偏重」から「非認知能力の再認識」へ

いばらき教育プラン
基本理念
「活力があり、
県民が日本一幸せな県」

目指す教師像
○教育への情熱をもち
学び続ける教師
○児童と保護者の気持ちに寄り添う教師
○心身ともに
健康な教師

目指す児童像
○自ら進んで学ぶ子
○感性豊かな心をもつ子
○未来をひらく
たくましい子

光輝学園の目指す児童生徒像
9年間を見通して、未来を志し、夢や希望をもってたくましく生きる児童・生徒

経営方針
夢・感動にあふれ、地域から信頼される学校づくり
～「つながる」「考える」そして「創り出す」の実現を目指して～

光輝学園研究主題 未来をひらく力を身に付け、夢に向かって学ぶ児童の育成
～個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ学習活動を通して～

- 学校組織目標**
- 1 児童同士をつなぎ、主体性・協働性を高める授業づくり
 - 2 互いに認め合い、自分を安心して表現できる学年・学級づくり
 - 3 児童と向き合う時間の確保とワークライフバランスを意識した働きやすい職場環境づくり

学び わくわく ↔ **心 ほかほか** ↔ **身体 もりもり**

1 学ぶ楽しさを実感できる授業づくり
・児童の声が響き合い、みんながつながりあう教室づくり（ペア・グループ学習の充実）
・一人一台端末等のICTのさらなる活用
・学習意欲を高める学習課題の工夫
・学習の見直しや振り返りの重視
・単元全体を通した授業づくりと付けたい力の児童との共有

2 探究的な授業づくりへの挑戦
・学習の個性化を踏まえた授業展開（児童に委ねる場と時間の確保）
・コーチングによる児童の学びの支援
・学校図書館の積極的及び効果的な活用
・外部講師（専門家）の有効活用

3 指導体制の工夫
・中・高学年における一部教科担任制の導入
・相互授業参観の日常化と教材の共有

○児童アンケート（肯定的回答）
「授業に進んで取り組んでいる」
90%以上（昨年度87%）
「意見を出し合って学習課題に取り組んでいる」
90%以上（昨年度87%）

1 思いやりの心を育む学校づくり
・ルールメイキングを活用し、納得解を導く力、折り合いをつける力の育成
・温かい言葉であふれ、互いに認め合い、自分を安心して表現できる「心の安定基地」となる学級づくり
・係・委員会活動や実行委員会活動の充実
・異学年交流の充実

2 自己管理能力を高める取組の推進
・児童の心に響く道徳科の授業実践
・自己決定する場の日常化
・あいさつや感謝の言葉が自然に出てくる児童の育成

3 特別支援教育の充実
・特別支援教育コーディネーター等を中心とした校内支援体制の構築
・合意形成に基づく合理的配慮の提供

○児童アンケート（肯定的回答）
「学校生活が楽しい」
90%以上（昨年度85%）
「楽しく生活するため考えて行動している」
85%以上（昨年度78%）

1 進んで運動に親しむ児童の育成
・体を動かす楽しさを実感できる授業づくり
・十分な運動量を確保できる授業展開や場の工夫
・リズムジャンプを活用した体力の向上
・業間・昼休みの外遊びの推進
・体力テストの結果の活用と個々の発達段階に応じた指導の充実

2 健康の保持増進のための実践力の育成
・養護教諭と連携した保健教育の実践
・家庭と連携した保健教育、薬物乱用防止教室等の実施

3 望ましい食習慣の形成と自己管理能力の育成
・栄養教諭と連携した食に関する指導の充実
・早寝・早起き・朝ご飯の推奨

○体力テスト総合評価A+Bの割合
50%以上（昨年度44%）
○児童アンケート（肯定的回答）
「健康的な生活を心掛けている」
90%以上（昨年度85%）

安全・安心な学校づくり

- 1 全教職員による危機管理マニュアルの見直し・改善と効果的な避難訓練の実施
- 2 定期的・日常的な安全点検の実施と適切な処理
- 3 地域との連携による学校防災力の強化

教師力・学校力の向上

- 1 互いに学び合う校内研修の充実（相互授業参観の推奨）
- 2 教員評価を活用した人材育成と学校の活性化
- 3 教師の人間性や創造性の向上
- 4 効果的な教育活動の展開を目指した働き方改革の推進

地域とともにある学校づくりの推進

- 1 コミュニティスクール導入へ向けた推進会議の充実と情報の積極的発信
- 2 ホームページや学校だより等を通じた情報発信
- 3 学校支援ボランティア（松ボラちゃん）の有効活用